

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590500100		
法人名	特定非営利活動法人 NPOふくし永源寺		
事業所名	グループホームやすらぎの里けやき		
所在地	〒527-0231 滋賀県東近江市山上町5040		
自己評価作成日	令和5年 7月 5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人滋賀県社会福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8-138		
訪問調査日	令和5年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に恵まれた立地と日中は、施錠されていないドアや大きな窓により、季節感や解放感を味わって頂ける。鈴鹿の山々、四季折々の景色、一日の景色の変化を望められる環境の中で生活されている。ホームの近くにあるやすらぎ農園に向き、野菜の収穫や良い天気の日にはホーム周辺を散歩、ベンチに腰掛け日光浴をして頂き、ゆったりとした時間を過ごして頂いている。ホーム内では、歩行訓練、口腔体操を取り入れ活動して頂いている。食事作りのお手伝いや後片づけ、洗濯物の仕分け等、一人ひとりの身体に合わせ出来ることをして頂き役割を持って頂くことにより、個々の残存能力を生かした取り組みをおこなっている。職員と関わりを大切に、しお互いに冗談を言い合って笑顔を絶やさない雰囲気作りに心がけている。四季を通じて目で見て、肌で感じ味を楽しむら感を大切にしている。行事やイベントに参加して頂き、外出にも大変喜ばれ会話や笑顔が自然と増えています。利用者様の生き生きとした明るい表情が日々見られるように心のケアを重視した関わりに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

滋賀県南東部の、緑に囲まれたどかな田園風景の中に、平成24年開設された1ユニット9名の利用者が生活するグループホームである。敷地内には同じ法人が運営するグループホームと通所事業所が併設され、合同で避難訓練や職員研修を実施している。利用者は、比較的自立度の高い人が多く、農園で育てた大根、玉ねぎ、ジャガイモ等の野菜を収穫し、収穫した旬の野菜を調理する等、持っている力を発揮し、生きがいや、やりがいを感じながら、生き生きと暮らしている。運営推進会議には、家族代表、地域の代表者、民生委員、老人クラブ、認知症キャラバンメイト等地域の多様な方々が参画し、地域の一員として受け入れられ、支え合う協力体制が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に数ヶ所理念を示し、いつでも目に付くよう廊下や共有スペースに掲示し意識付け出来る環境にある。職員会議等でケアの方針理念の共有している。	基本理念は、隣接するやすらぎの里永源寺開設時に作られ、けやき開設の際、取り入れられた。施設内の廊下等に理念を掲示し、職員会議で振り返り、日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の活動やボランティアとの積極的、直接的関りは出来ていないが小学校とは、DVDで活動を報告していただき、お手紙で交流を行っている。日赤奉仕団の方々には、外から清掃作業に携わって頂いている。広報誌などでは、活動内容を記載し配布している。 花見、畑、地域に密になる事を避け出かけている。	コロナ前は、近隣の小学校に出向き、認知症の理解を拡げる活動を行っていた。現在はDVDや手紙等で交流を続けている。年2回の広報誌は、役員、病院、郵便局、近隣4つの字の回覧板等に配布し、事業所の取り組みを発信している。	感染対策を取り、状況を見ながら、事業所理念の実現のため、ボランティアの受け入れ再開を検討されては、どうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為昨年度まで研修等は行えていないが、運営推進会議(書面会議)広報紙等を通して認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度までコロナ禍でも書面会議に変更し、隔月開催しご意見等いただき、職員に周知サービスの向上に生かしている。	今年度は、地域のコミュニティセンターを借りて、2か月に1回対面で開催している。地域の役員、民生委員、ボランティア、家族代表、長寿福祉課等たくさんの方が参画し、闊達な意見交換が行われている。防災や避難訓練について、助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度は運推進会議(書面会議)参加して頂いており、困りごとや相談事があれば指導して頂いている。コロナ感染時や対策、ワクチン接種についての相談にも助言して頂き密に行った。	本庁の長寿福祉課に相談するとともに、日常的に支所に向いて相談できる関係を築いている。運営推進会議で長寿福祉課から、事故報告やヒヤリハットへのアドバイスを頂く事もある。コロナ禍のとき、感染時の対応について、支所から協力をしてもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び虐待防止委員会を3か月に一回開催しており、センサーマットの使用状況、目的等明確にして議事録回覧し職員と周知している。リモートで研修を受け職員会議等で報告する。また、職員会議でマニュアルなど用いたり、事例をあげ会議でグループワーク形式で勉強会をしている。	法人内の事業所合同で、3か月に1回、身体拘束適正化委員会と虐待防止推進委員会を開催する。議事録は職員で回覧し、周知徹底している。法人内でマニュアルを作成し、改定を随時している。職員研修ではスピーチロック(言葉による拘束)的なことがないか振り返りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設置と委員会主催の研修会があり職員会議で話し合い気づいたことを上げ防止に努めている。研修等で職員が学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護に関する研修を職員会議で行い意見交換を行っている。分らない時は、市職員に相談し活用できるよう努めている。利用者様及びご家族様の必要性に応じて話を聞き柔軟に対応するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重度化のリスクや対応、退去理由についても説明を行い、了承を得ている。また、状態の変化により契約解除に至る場合もその後の対応を含め、家族様と相談の場を設け納得、了承を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が、面会時、電話等で伝えやすい関係に努めている。家族の要望、意見交換や思いをくみ取るようにしている。運営推進委員会に家族代表に参加して頂き意見を伺う機会があり運営に反映させている。	家族の面会は、今年度4月から玄関で15分としている。入所して日が浅い利用者には、家での様子を家族から聞き、関係づくりをしている。毎月1回、担当職員が、利用者の姿や活動の様子を写真を添えて手紙を書き、家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上職者に個々に言える関係作りが出来ており、月一回行う職員会議でお互い意見が言えている。意見等は個々に議題に上げ運営に反映させている。	月1回の職員会議は午後で開催している。遠慮なく意見を議題に上げ、皆で相談し、考える関係性がある。日々の業務引継時に話をし、ゆとりのある時に、利用者のケア、業務のことについて情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長及び司法書士の指導の元環境や条件の整備されている。適材適所でやりがいをもって働けるよう個々に業務を担当して配慮するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部研修に出向くことは殆ど無かったが、リモートやビデオで研修を受けた。各職員にあった資格が習得できるよう支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や事例検討研修会に参加し他事業所の取り組みや報告を取り入れ、サービスの質の向上を目指している。職員会議で報告する機会を設け、意見を出し合い研修報告を提出する取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者やケアマネが本人や家族と出会い、生活歴や不安要素、思いをしっかりと聞き、ホームに馴染めるよう本人の意思を尊重するよう努めている。 ホームに馴染めるよう話を傾聴しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面接の相談時、家族の不安や困りごとと苦労を聞き取り、ご家族のニーズを理解し、事業所では、どのような事に対応できるのかを話し合いながら、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を確認し何を必要とされているか見学に来られた時や、契約、面接時にお話を伺い、本人の困りごと、不安など把握し家族の思いも理解するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動や感動を共有することで、思いを理解するよう努めている。人生の先輩として接し知識を教えてもらっている。日常の家事作業は、本人の能力好みに配慮し取り組んでいる。利用者、職員共同で行い、お互いに助け合い声をかけながら暮らしを共にする関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	4月より面会解除になり、気軽に面会に来て頂き絆を保てるように胃炎している。認定調査や特別な受診には家族に立ち会っていただくなど、協力を得ている。普段の様子が分かるように1ヶ月の様子や活動の様子が分かるよう写真を送っている。お互いに助け合い暮らしを共に支える関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を除き、ご友人、知人、近隣の方々の面会を受け入れている。また、隣接している永源寺のホームやデイサービスにおられるご友人と出会える機会を設けている。	現在は人込みへの外出は控えているが、利用者から、近くのスーパーへの買い物再開の希望はある。畑や中庭、駐車場で隣接する永源寺ホームやデイサービスの利用者との交流の機会がある。年数回町内の理髪店に散髪に行く機会があり、好評である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の身体状況に合わせ出来ることをして頂きながら、職員が会話や橋渡しをし利用者同士と一緒に協力できる関係作り、普段席が離れている方もレクリエーション、外出時に交流して頂くなどの配慮している。利用者同士挨拶される場面や協力されたり助け合うとされる姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も声を掛けご本人の経過を訪ねるよう心掛け、場合によっては、フォローや相談などの支援を行っており、他の施設へ移られる場合には、本人状況や支援情報を詳しく伝えてご本人がスムーズに入所できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで、本人の発する言葉や行動、態度をケース記録、日誌等に記載し、職員同士が内容を把握している。家族からの情報や意見、お話を元に判断するよう心掛けている。思いや希望をくみ取り利用者本位のケアに努めている。	ほとんどの方が会話で意思疎通ができる。本人の言葉や行動を記録し、ケアに反映している。本人の思いが通らない場合や、興奮し不穏になりかけているような場合は、会話して、思いをくみ取る関りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からこれまでの暮らしぶりや、生活歴、趣味など過去の情報を収集し、本人の理解に努めている。これまでのサービス利用の経過や情報も関係者から聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りケアを重視し、個々の動静や言動、気分変化を観察し、心身の状態や能力の把握に努めている。(排泄、バイタル、食事量、一日の過ごし方)これらの情報を各記録に記載し、職員会議で議題に上げ共有する事で、ケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活歴や、本人やご家族から、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き作成するように努めている。状態変化や日々のケアの中での気づきなど職員会議等で、意見交換し、モニタリングを行いプランに反映しています。ご家族や医療関係者とも連絡を密にしている。統一したケアが行えるようサービス計画を作成しています。ケアプランは、変化があった場合は都度変更し、家族の承認を得ています。	長期目標は6か月毎、短期目標は3か月毎に見直しをしている。ケース記録や担当職員からの聞き取り、職員会議で全職員と話し、計画とモニタリングには多角的な視点が反映されるようにしている。家族には、面会時や電話で連絡し、同意をいただき、書面に署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のエピソード、言動や身体の状態、一日の活動や変化があれば、ケース記録や介護記録等個別に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族のニーズに応じて、受診や理髪サービス、外出(花見、桜、菜の花、牡丹、畑での収穫など)職員間で話し合い柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部との接触ができない状況が続いていましたが、ホーム駐車場での獅子舞見学して頂き今年も市の主催の花火を鑑賞して頂き楽しんで頂けるよう支援します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、受診経過や今後の通院に関して家族と話し合い希望の医療機関へ通院して頂いている。家族が付き添えない場合は、職員が付き添っている。定期健診以外にも必要に応じて随時受診を行っている。ご家族が付き添われる場合連携シートに記載し医師と情報を共有できるよう工夫している。	入所前からの病院に通院する人が1名。入所前から現在の協力医が主治医だった人が2名。残りの方は入所と同時に協力医が主治医となった。緊急時や急変時に連絡し指示を仰ぐことや、往診していただく、体制がある。歯科往診を利用する人が、2、3名いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍していない為、異変があれば、直ちに協力医、かかりつけ医に相談し、指示を仰いでいる。普段から利用者の体調や様子の変化に気づけるように、見守りケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院目的を早く達成してもらえるように、協力医や家族と話し合い連携している。サマリー等を医療機関に提供している。入院期間中は、地域連携室相談員や担当看護師、家族と回復状況等情報交換し、早い退院に繋げるようにへの支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所での介護方針や目的、体制など契約書に記載されている内容をわかりやすく説明し、重度化や終末期は、相応の施設や病院への連携を行うことを理解、納得して頂いている。入所後も本人の状況、体調変化に合わせてその都度ご家族や関係者と話し合いを行い理解して頂くよう努めています。	契約時に、重度化した場合の対応について説明し、理解と同意を得ている。歩行や飲み込みが困難になると、特別養護老人ホームへ、入所を検討していただいている。本人、家族の思いを聞いて、次の段階へ移行する選択肢を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を行い、心肺蘇生、骨折、止血、喉つまりの対象方法を学んでいる。協力医には、夜間わず連絡を取れるようにしている。緊急時対応マニュアルがスタッフフルームの目に付く所に貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全室にスプリンクラーを設置し、年1回消防設備点検、立ち入り調査がある。調査員より、アドバイスを頂き反映している。年2回の消防避難訓練の実施、避難経路の確認、水消火器を使用し使い方などの訓練を行っている。防災、減災マニュアルを作成している。	BCP作成に向け取り組んでいる。5月に外部講師を招き研修を実施した。有事の際、事業所に駆け付けられるか、職員アンケートを取った。職員の連絡網は作成済みである。米、野菜等の備蓄はある。使い捨てトイレ、水等の準備を進めている。停電時の電源確保は課題である。	引き続き、災害対策をすすめて欲しい。水や停電時の電源の確保等、準備をすすめていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のノック、トイレ時のドアの開閉時に声かけを徹底している。表情や行動などから、気持ちを汲み取りさりげない誘導や対応を心掛けている。日により同じ対応で違う反応される時があるので職員間で共有しプライバシーを損ねないよう心掛けている。	居室へ、入室の際はノックして名前を呼ぶようにしている。居室で昼寝される人、一人になることを好まない人がいる。今は声をかける、今は声かけを控える等、一人一人の性格や、過ごし方をみて、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすい雰囲気作りや、関わり方を心がけている、日課等は複数の選択肢から選んで頂いている。作業等は、希望を伺い提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日など一応の決まりはあるが、一日の流れの中で、個々の能力にや体調・ペースに合わせ暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や小物は、本人や家族が用意されたものを着ておられる。選ぶときは、毎回同じ服にならないように一緒に選んだりすることを心掛けている。季節にあったもの、着崩れしていないか整える配慮している。不足の物は家族様に持参して頂いている。定期的に地域の理髪店を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫から食事後の後片付けまで利用者と一緒にやっている。畑と一緒に収穫した旬の食材を使ったり、行事には、特別感のあるメニューを考え利用者と用意している。食事の支度前には、声かけし、食べたいもの等を聞き関りを大切に、利用者と一緒に食事をし食への関わりを楽しみにして頂くよう支援している。	しめじほぐし、キャベツの千切り、豆の選別、広告用紙でゴミ箱折り等、皆が食事の準備や後片付けに携わっている。畑で収穫した野菜や、近隣の方から差し入れの旬の食材を調理している。誕生日等イベント時は行事担当職員が、特別メニューを考案している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニュー票を確認して頂き栄養バランスを見てもらっている。持病がある場合には、水分量や体重の増減、食料などを記載し主治医や管理栄養士の指示を仰ぎながら個別に食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝時前に、声かけ見守りで、うがいや義歯洗浄を行っている。手順が分からない方には、気持ちに配慮しながら、歯磨きの手伝いをしたり、義歯洗浄を行っている。毎週月・木曜日には義歯洗浄剤を使用し義歯洗浄は就寝時に再度職員が洗浄し清潔に保っている。必要に応じて歯科往診を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録をとり、排泄パターンの把握に努めている。行動や表情のサインを見逃さず、さりげない声掛け誘導を行いトイレで排泄出来るように介助を行っている。その際には、プライバシーや羞恥心には配慮するよう心がけています。尿量や排便の有無など職員間で申し送りを徹底している。排泄のタイミングを知ることで不快感が無いよう支援している。	声かけがあればトイレで排泄できる人が3人、布パンツとバットの人が3人、リハビリパンツを使用する人もいる。ポータブルトイレは使わず、一人一人の排泄パターンを記録し、トイレに誘導している。自宅では、排泄時に汚染されていた人もいるが、現在は清潔が保持されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑仕事や散歩、体操などを行い、食事には乳製品や食物繊維を取り入れるようにして便秘対策に取り組んでいる。水分摂取の大切さを職員と利用者ともに認識をして、お茶を活動の合間に飲んでもらっている。又便秘気味の方は、主治医に相談し便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本としている。順番や入浴時間は、本人の状態や希望に沿うように配慮するなどしている。また柚子、牡丹などを使い季節感を楽しめる入浴を行っている。入浴の拒否のある方は、声掛けの工夫を行い気持ちよく入って頂き、清潔に保って頂けるようにしている。	全員が、浴槽につかり全身浴していただいている。「家に帰って入る」「寒い。かぜをひく」と、入浴を拒否する人が4名いる。どうしたら、気持ちよく入浴していただけるか、試行錯誤を重ね、あの手この手を使い、声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夕方は穏やかに過ごせる生活リズムを保ち安眠に繋がるように心掛けている。冷暖房を用いて室温調整に努めている。夜間頻尿や寝つきの悪い方は家族や医師と相談し、薬剤の調整をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬情報は、すぐに閲覧できる場所に保管し各利用者別に小分けBOXで保管している。セット時は、2重チェックを行っている。服薬時は、利用者へ手渡し、確実に服薬出来るよう見守っている。処方の変更があった場合は、受診記録を確認し職員全体で経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、野菜の収穫、日向ぼっこ、花いじり、裁縫、調理、掃除機掛け、家事全般を日常生活に取り込んで、充実感と役割による張り合いや喜びを感じて頂けるよう努めている。畑仕事や野菜の収穫は気分転換にもなる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染対策継続しながら、人ごみの外出は控えさせていただいている。畑やお花見、ホーム周辺散歩、理髪店、ドライブなど少人数で出かけられるよう支援し、季節の変化や気分転換を味わって頂けるよう努めている。	感染対策に留意しながら、畑に行く、近隣の散歩、敷地内の果樹を見る等は続けている。法人内のデイサービスの送迎車を借り、太郎坊宮参拝、桜、しゃくなげ、ひまわり等季節の花見等、ドライブに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームに現金を持ち込みを遠慮して頂いている。 家族様には、理解して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人からの便りに対して返事を書いていただけるよう支援している。利用者の要望によっては、家族の了解を得て電話もかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく開放的かつ採光も良い為、カーテンを開放し自然の光や景色から時間や季節を体感していただいている。冷暖房や加湿器を用いて湿度、温度を調整している。食堂では、音楽を聴きながら過ごして頂いている。朝と16時(換気時)掃除機掛け、拭き掃除及び消毒を徹底している。夜勤者が食堂のイスなど消毒を行っている。 食事前には、必ず消毒してもらっている。	大きく開放的な窓からは、自然豊かな田園風景が見える。玄関は施錠せず、安全対策により、センサーでブザーが鳴るようにしている。居室は全室鍵をかけないようにしている。リビングの隣に畳の和室があり、利用者が洗濯物を仕分け、畳んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や日当たりのよい廊下にイスが置いてあり、景観を眺めながら、数人の会話の場となっている。暖かい日には日光浴を楽しんでいる。 思い思いに過ごせる環境づくりに努めている。感染対策の為にアクリル板を取り除き解放感ある生活をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や備品を持ち込み思い出の家族の写真や飾りなどしている。思い出の品について傾聴するなどして居室でくつろいで頂ける工夫をしている。 利用者と職員が協力し清潔を心掛け居心地よく過ごせるように務めている。	自宅で使っていた馴染みの家具や、ぬいぐるみを持ってこられる人もいる。作品や、写真を飾っている人もいる。どの部屋も日当たりと風通しが良い。居室担当が衣替え等手伝い、足りないものがあれば家族に連絡をしている。エアコンの空調管理は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内や居室の名前を見易い位置に表示している。利用者が日常的に使う物は混乱しないように所定の場所に表示して置いている。利用者の行動範囲に物を置かず動きやすい区間作りを心掛け、自立した生活が安全に送って頂けるよう工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	感染対策を取り、状況を見ながら、事業所理念の実現のため、ボランティアの受け入れ再開を検討されては、どうか。	コロナ・インフルエンザをはじめとする感染症の症状を踏まえ、ボランティアの受け入れ等を再開し、地域の一員として交流・貢献していく。	社協と協働し小学校6年児童とのシニア体験学習を計画(スライドショーでの認知症学習、畑作業を通して交流する)している。また、日赤奉仕団の清掃活動等のボランティアを受け入れ、短時間から施設の様子を見ていただいたり、利用者との交流をしていただく。	24ヶ月
2	13	引き続き、災害対策をすすめて欲しい。水や停電時の電源の確保等、準備をすすめていただきたい。	研修やBCP委員会、避難訓練への取り組みを続ける。備蓄用の水・食料品を確保する。停電時の電源の確保、または明かりを確保できる備品を備えておく。	地域の講座等に参加し、研修内容を職員全員に周知し把握するように努める。BCP委員会の取組みから必要な対策・備品等を明確にし、備品の確保や訓練に反映し災害に備える。	24ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()